

登録コード	E6103900	開講年度	2026				
授業科目	肢体不自由の心理・生理・病理					担当教員	宮地 弘一郎
英文授業名	Fundamentals of Psychology, Biology and Etiology of Physical Handicapped Children and Youth					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・5時限	対象学生	2
講義室	教育 E 5 0 4 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	旧：肢体不自由児の心理・生理・病理
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	肢体不自由児の制約要因を理解し支援するために必要な基本的視点を習得し, 肢体不自由教育の意義と目標を設定できる。また家庭や医療機関との連携の重要性について理解できる。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	肢体不自由の起因疾患（脳原性疾患、脊髄疾患、末梢神経疾患）となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。また感覚・認知・運動の定型発達を理解し、重度事例をはじめとした個に応じた発達援助に応用できる。
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース						
(4)授業の概要	医療の発展により、重い障害を持った子どもの延命が可能となってきた。このことから、重度知的障害と運動障害を併せ持つ重症心身障害児、また高度な医療ケアを必要とする重度重複の肢体不自由児が増加してきている。この授業では、従来の肢体不自由教育の対象疾患についてとりあげた上で、年々ニーズが高まる重症心身障害児や重度肢体不自由児の発達支援に目を向け、「障害と共に生きる」ということを再考したい。 授業内容 1)肢体不自由を伴う多様な障害に対応できる視点を持つための基礎的知識を習得する。 2)高度な専門性と多面的アプローチが不可欠となる重症心身障害児の課題から、定型発達のプロセスを理解し、発達を実現するための視点と方法を習得する。						
(5)授業計画	第2,3,5,6,7回はオンデマンド形式を予定している。 第4回は教室授業を予定しているが、オンデマンドで行う場合がある。 第1回 肢体不自由児の理解①…肢体不自由児の制約要因 第2回 肢体不自由児の理解②…「療育」～医療・教育・キャリア形成【遠隔】 第3回 肢体不自由児の理解④…脳性麻痺の障害類型【遠隔】 第4回 肢体不自由児の理解⑤…脳性麻痺の評価と支援 第5回 肢体不自由児の理解⑥…二分脊椎、ヘルテス病【遠隔】 第6回 肢体不自由児の理解⑦…骨系統疾患、先天奇形【遠隔】 第7回 肢体不自由児の理解⑧…進行性疾患、ダウン症他【遠隔】 中間試験 第8回 肢体不自由児の理解⑧…重症心身障害 第9回 肢体不自由児の発達科学①…定型発達(1)「育脳」のメカニズム 第10回 肢体不自由児の発達科学②…定型発達(2)感覚・認知機能の初期発達 第11回 肢体不自由児の発達科学③…定型発達(3)運動の初期発達 第12回 肢体不自由教育の関連領域①…ICFモデルからみた重症心身障害 第13回 肢体不自由教育の関連領域③…VTR演習（発達評価と環境分析） 第14回 肢体不自由教育の関連領域④…肢体不自由児の自己実現とは 授業アンケート <欠席について> ・やむを得ない理由による欠席については、規定に基づく申請を行い証拠の確認の上で教育実習による欠席と同様の補充方法とする。 ・なお指定した補充方法を履行できなかった場合の再補充は行わない。 ※集中講義については、補講は行わないので、受講できるよう日程調整を行うこと。困難な場合は履修登録前に相談すること。						
(6)成績評価の方法	筆記試験（50%）およびレポート（50%）						
(7)成績評価の基準	以下の基準により段階評価する。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可 秀(S) : 授業の達成目標の水準から見て卓越している 優(A) : 授業の達成目標の水準よりかなり上にある 良(B) : 授業の達成目標の水準よりやや上にある 可(C) : 授業の達成目標の水準にある						

(7)成績評価の基準	不可(D): 授業の達成目標の水準よりやや下にある 不可(F): 授業の達成目標の水準にない
(8)事前事後学習の内容	幅広い知識内容を習得する必要がある科目であり、授業で講義する内容はその基礎的内容である。配布資料については授業外の時間に十分な予習・復習を行い、さらに授業で講義した内容やキーワードについて図書館等を活用して調べ学習を行い、知識の習得と内容の理解を図ること。なお本科目は、授業と授業時間外での自学自習とを合わせて90時間程度の学習を原則とする。
(9)履修上の注意	・本科目は「肢体不自由児の心理・生理・病理」からの名称変更。「肢体不自由児の心理・生理・病理」受講予定の学生は本科目を受講登録してください。 ・記載の対象学年は特別支援教育コース向け（特支コース以外は学年問わず）。なお「知的障害児の心理・生理・病理」の講義内容が基礎となるため、スムーズな内容理解のためにはできるだけそちらを前もって履修しておくこと。ただし事前に「知的障害児の心理・生理・病理」授業を履修できなかったとしても受講は可能。 ・本科目の一部はオンデマンドで行う予定です。教室授業の日程をeALPSまたは第1回の教室授業で案内するので、必ず日程を確認すること。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	メールまたは研究室訪問により対応する（アドレスは時間割表に記載）。研究室訪問は常時受け付けるが、なるべく事前に訪問日時を相談すること。
【教科書】	特になし。必要に応じて授業中に資料を配布する
【参考文献】	参考書籍は特にないが、教育学部図書館に授業内容と関連するビデオ教材がいくつかあるので紹介する。 児玉和夫・北住映二監修 乳児期の運動の発達とその障害（全3巻）メディアパーク 松村京子監修 子どもの発達と支援（全5巻）医学映像教育センター 田中昌人監修 発達診断の実際 姉妹編 あそびの中にみる各年齢児（全6巻）カナリヤ出版 映像情報センター制作 熱き親の想い 草野熊吉・重症児を語る 映像情報センター